

第5・6学年総合的な学習の時間学習指導案

日 時	平成16年9月8日(水) 5校時
児 童	5年生 男5名 女5名 計10名 6年生 男3名 女3名 計 6名
場 所	5・6年教室
指導者	佐々木 真澄、藤原 尚也

1 単元名 手をつなごう、今を生きるわたしたち

2 単元について

(1) 設定の理由

本校の総合的な学習の時間は、学習指導要領の趣旨を踏まえて、人や地域との関わりを通して、課題を見出し解決する能力や態度、豊かなものの見方・考え方、主体的・創造的な実践力を育て、自らの生き方を考えることができることをねらいとしている。

本単元「手をつなごう、今を生きるわたしたち」は、人権教育と関連をもたせて設定した単元である。今、この時を生きているのは、自分だけではなく、生まれたばかりの赤ちゃんから90歳、100歳のお年寄りまで、多くの人がいることや、自分たちと同じ年齢、同じ学年であっても障害をもっている人、障害はなくても自分とは違う人があるなど、児童が、このような様々な人達と共に生きているということに気づき、お互いを認め合い、自分にはどのようなことができるのかを考えて、行動できるようにすることが大事であると考えます。

そこで、本単元を学習することで、目の前の友達や家族、そして、地域の方々とこれまで以上に認め合い、自他共に大切に、人権を尊重した行動ができることを願い、本単元を設定した。

(2) 児童について

5・6年生は、昨年度から複式学級として編成され、今年度は2年目を迎える。昨年度、中国人のT・Mが転入してきた。T・Mは、本来ならば4年生であるが、日本語に慣れるために2学年児童と一緒に多くの学習をした。しかし、総合的な学習の時間では、4・5年生(今の5・6年生)と一緒に中国を題材とした学習を行った。人一倍頑張り、運動能力も高いこの児童は、今年度は5年生として他の子たちと一緒に学習を進めている。

6年生の児童T・Sは、通常の学習にはついていけない状況にあるが、反面、インターネットの検索やキーボードでの入力などが速くできたり、友達や先生方の誕生日を正確に覚えていたりするという長所をもっている。

複式2年目ということで、5・6年の仲は良いのだが、上下関係ができてきている。また、T・MやT・Sに対して、なじめなかったり、自分よりも能力が劣るものや自分とは考えや性格などが違うと感じるものに対して十分に認め合っているとはいえない状況にある。

このような児童の実態から、本単元を学習することで、さらにお互いを認め合いながら友達同士が関わっていけるように指導していきたいと考えている。

(3) 指導にあたって

児童に、単元の学習を進めるうえで様々な体験をさせたいと考えて、5年生には保育所の子どもたちとの保育体験と介護センターでの介護体験、6年生には聾学校の児童との交流を設定した。この体験活動を実施する前に、どんな活動をしたいか、どんなことができるのか、どんな人達なのかなどを調べ、考え、話し合う活動を通して、自分たちなりの思いをもたせると共に、学習に対する意欲を高めさせたい。6年生は、一昨年に保育所と介護センターでの体験活動をしてきているので、5年生の活動はある程度分かると思われる。

保育所での体験活動は、0歳～2歳の小さい子どもたちとで、介護センターでの体験活動は80歳の方や90歳の方とであるから、5年生の児童は、今を生活している人の上下の幅(年齢の幅)を体験することになる。

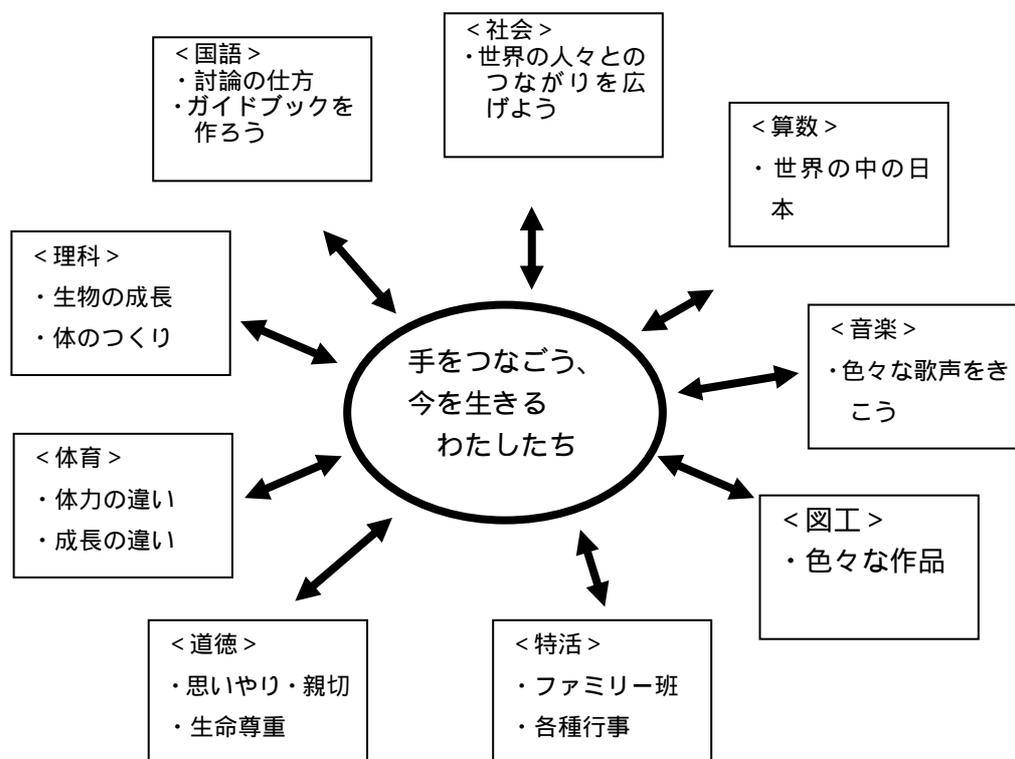
聾学校での交流活動の対象は、6年生である。自分たちと同じ年齢でも耳に障害のある子どもたちがいることや、自分たちとは違った学習をしたり、あるいは同じ学習をしているなど、それぞれ感じとることがたくさんあったと思われる。6年生の児童は、今を生活している人の左右の幅を少し体験することになる。

これらの体験活動を基にして、今を生きる自分たちと他の人達とを比べさせ、違いや共通点を見つけさせていきたい。そして、地域の人との関わりをもちながらそれらをさらに詳しく調べさせることによって、一人一人の違いを認め合って、自分も他人も大切にしていくことの重要性に気づき、これからの生活に生かしていけるようにさせたい。

研究仮説「自分を取り巻く人たちとの関わりを多く取り入れた体験活動」との関わりにおいては、単元の始まりの部分で5年生は町内の施設「前沢町立保育所」「まえさわ介護センター」を訪問し、体験活動をした。また、6年生は、学習旅行にあわせて「宮城県立聾学校」を訪問し、交流することによって体験活動を行った。そして、児童それぞれの課題を追求し解決する段階では、またそれらの施設を訪問したり、質問やインタビューをしたりするなどして、更に関わりを深めていくように指導していきたい。更に、その関わりを新しい施設や地域の他の人などにも広げさせていきたいと考えている。

研究仮説「他者との関わり方の観点を取り入れた評価の活用と支援」との関わりにおいては、授業中の一人一人への対応はもちろん、「上っ子タイムアクションシート」や「上っ子タイムワークシート」への記載を基にして、一人一人の興味・関心や困っていることや悩んでいることに対して支援をしていきたい。また、「個人別評価等記録カード」への記録、「上っ子タイムアクションシート」での自己評価、「上っ子タイムワークシート」での相互評価を総合して児童一人一人を評価していきたいと考えている。

(4) 教科等との関連(主なもの)



3 目標

保育所での保育体験、介護センターでの介護体験、聾学校での交流活動を通して、今を生きているのは自分たちだけではなく、様々な人がいるということが分かり、それぞれの違いを認めることができる。

それぞれの違いを認め、自他共に大切にすることの重要性に気付き、これからの生活に活かしていくことができる。

4 指導計画 (60 時間)

段階	月	活動内容	評価規準(観点) <評価方法>
気付く	5 ~ 6	<p>【前沢町立保育所、まえさわ介護センター、宮城県立聾学校を訪問しよう】</p> <p>保育所、介護センターを訪問することにより、保育園児もお年よりも一人一人違うことに気付くと共に、聾学校を訪問することによって、自分たちとの違いや共通点に気付くことができる。</p> <p>訪問、交流をするために必要な準備をする。</p> <p>実際に訪問、交流をする。</p> <p>訪問、交流を振り返り、自分たちとの違いや共通点について考える。</p>	<p>それぞれの訪問、交流について、事前学習を生かして活動しようとする。</p> <p>(興味・関心・意欲) <行動の観察、シートへの記述> 訪問、交流をするための準備を自分なりに考え、進めることができる。</p> <p>(学び方・考え方) <児童の発言、シートへの記述> 訪問、交流の際、自分から積極的に関わりをもつことができる。</p> <p>(他者との関わり方) <行動の観察、シートへの記述> 自分たちとの違いや共通点について考えることができる。</p> <p>(学び方・考え方) <シートへの記述></p>
つかむ	7	<p>【活動の課題と活動のゴールを考えよう】</p> <p>違いや共通点をさらに詳しく調べるための課題を作ることができる。</p> <p>学級全体の課題を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤ちゃん、お年寄り、障害者について詳しく知ろう。 ・ 個人の課題を考える。 ・ 聾学校の人達が、生活で困ることはどんなことか。 ・ お年寄りがしてほしいことはどんなことか。 ・ 赤ちゃんは、どんな風にして大きくなっていくのか。 <p>活動のゴールを設定することができる。</p> <p>この活動のゴールを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな人がいることを劇で表現したい。 ・ それぞれの違いや共通点をまとめて発表したい。 <p>活動の終わりには、自分がどのように成長していきたいのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いろんな人のことをたくさん知って、人のことを考えられる人になりたい。 ・ 障害者のことを詳しく知り、その人達のために何かができる人になりたい。 ・ 聾学校に行ったときは、とても緊張して、自己紹介もままならなかったのが、今度このようなことがあったら、堂々とできるようにしていきたい。 	<p>課題を自分なりに考えようとする。</p> <p>(興味・関心・意欲) <行動の観察、シートへの記述> 違いや共通点を基に、課題を自分なりに考えている。</p> <p>(学び方・考え方) <児童の発言、シートへの記述></p> <p>ゴールを自分なりに考えようとする。</p> <p>(興味・関心・意欲) <行動の観察、シートへの記述> ゴールを自分なりに考えている。</p> <p>(学び方・考え方) <児童の発言、シートへの記述></p> <p>自分がどのように成長していきたいのかを考えている。</p> <p>(自己の生き方) <シートへの記述></p>

<p>行動する 23</p>	<p>7 9</p>	<p>【課題を解決するために行動しよう】 グループごとに解決するための計画を立て、行動することができる。 グループに分かれて計画を立てる。 ・ 夏休み中の自主活動計画を立てる。 自主活動をまとめる。 自主活動で分からなかったことやもっと深めたいことを出し合い、計画を立てる。(本時) 計画に沿って行動する。 ・ 赤ちゃん知り隊...保育所に行き調査。 お母さんに聞いてみる。 ・ お年寄り知り隊...介護センターに行き調査。近所のお年寄りに聞いてみる。 ・ 障害者知り隊...社会福祉協議会や養護学校での調査。キャップハンディー体験。 お世話になった人への感謝の手紙を送る。</p>	<p>課題を解決するための計画を自分なりに考えようとする。 (興味・関心・意欲) <行動の観察、シートへの記述> 課題を解決するためにどうしたらいいのか、解決方法を考えることができる。 (学び方、考え方) <行動の観察、シートへの記述> 課題を解決するために積極的に行動しようとする。 (興味・関心・意欲) <行動の観察、シートへの記述> 関係する人達へ、積極的に関わっている。 (他者との関わり方) <行動の観察、シートへの記述> 感謝の手紙に自分の気持ちを書くことができる。 (他者との関わり方) <手紙への記述></p>
<p>まとめる</p>	<p>10</p>	<p>【分かったことをまとめよう】 行動し、分かったことをグループごとにまとめ、発表することができる。 分かったことをグループごとに話し合っまとめる。 グループごとに発表する。 「人権」の意義を知り、特別な人だけでなく、身の回りにいる人すべてに関係があることを理解し、発表する準備をすることができる。 人権の意義・内容や重要性を理解する。 人権尊重に関して身につけた知識をさらに主体的な行動に結び付けさせるために発表の内容を考える。 発表する準備をし、練習をする。</p>	<p>自分から進んで話し合いに参加しようとする。 (興味・関心・意欲) <観察、シートへの記述> 話し合いで自分の考えを積極的に出している。 (学び方・考え方) <行動の観察> 「人権」について意味を調べたり、考えたりしようとする。 (興味・関心・意欲) <行動の観察> 発表の準備、練習に積極的に参加しようとする。 (興味・関心・意欲) <行動の観察、シートへの記述> 発表の準備、練習に積極的に参加している。 (学び方・考え方) <行動の観察、シートへの記述></p>
<p>表現する</p>	<p>11</p>	<p>【まとめた発表をしよう】 まとめたことを発表することができる。 まとめたことを堂々と発表する。</p>	<p>まとめたことを自分なりに発表しようとする。 (興味・関心・意欲) <行動の観察、シートへの記述> 堂々と発表することで自分に自信をもつ。 (自己の生き方) <行動の観察></p>

振り返る	12	<p>【これまでの活動を振り返ろう】 これまでの活動を振り返り、これからの生活に生かしていこうとする。 これまでの活動を振り返る。 これからの生活でどのように生かしていくかを考える。</p>	<p>これからの自分の生活に生かそうとする。 (興味・関心・意欲) <シートへの記述> 活動を通して、自分の成長に気付く。 (自己の生き方) <シートへの記述></p>
------	----	--	---

注 は目標を、 は活動内容を表す。

5 本時の活動

(1) 目標

夏休みの自主活動において、解決できなかったことを出し合い、それらを解決するためにどうしたらいいのか解決方法を考えることができる。

(2) 展開

段階	活動内容	評価規準()支援()留意点(・)
導入 (13分)	1 自主活動で解決できたことと、できていないことを発表する。 2 今日の目標を知る。 よりよい解決方法を考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> 相互評価の観点を示す。 他のグループの発表をよく聞かせる。 上っ子タイムアクションシートに書かせ、意欲付けをする。
展開 (25分)	3 個人で解決方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 自分のグループのもの 他のグループのもの 4 グループ毎に解決方法を話し合う。 5 グループ毎に話し合った解決方法を発表する。 6 グループ毎に解決方法をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 上っ子タイムアクションシートに自分の考えを書かせる。 書けない児童へは、個別に指導を行う。 上っ子タイムアクションシートに書いた自分の考えを基にして、話し合わせる。 解決するためにどうしたらいいのか、解決方法を考えることができる。 (学び方、考え方) <行動の観察、シートへの記述> 解決方法がなかなか考えられない児童に対しては、これまで経験した方法を思い出させながら、考えさせる。 発表に対する質問、意見をとることで、より深められるように配慮する。 質問や意見を基にグループ毎によりよい方法を話し合い、まとめるように指導する。
終末 (7分)	7 本時の活動を振り返り、感想、自己評価、相互評価を書く。	<ul style="list-style-type: none"> 何人かに発表させることで、本時の活動が有意義なものと感じられるようにさせる。